

羽ノ浦・那賀川図書館改修にかかる 補助金・地方債活用に関する提案書

阿南中央図書館（仮称）開館後も羽ノ浦図書館・那賀川図書館を守る会

1. 提案の趣旨

羽ノ浦図書館・那賀川図書館はいずれも築 30 年以上を経過し、老朽化に伴う改修・修繕が急務の状態にある。今後、両図書館を地方債の対象施設から外した場合、財源確保が課題となります。

しかしながら、適切な事業設計により、国の補助金と有利な地方債を組み合わせることで、市の実質的な財政負担を大幅に抑えながら、市民が強く求める Wi-Fi 整備・自習スペースの確保を含む機能強化を伴う改修を実現できる可能性があります。

本提案は、活用可能な財源を整理し、各図書館の特性に応じた最適な財源組み合わせモデルを示しています。

※守る会がネットで検索出来たものであり、実際の活用にあたっては個別に確認が必要です。

2. 両図書館の現状と課題

両図書館に共通する現状と課題は以下のとおりです。

- ・築 30 年以上が経過しており、屋根・外壁・設備の老朽化が進行、早急な改修・修繕が必要な状態にある
- ・市民アンケート等において、Wi-Fi 整備・自習スペースの整備を求める声が特に強い
- ・地方債の対象施設から外れるリスクがあり、通常の財源では対応が困難になる可能性がある

また、各館固有の状況として、次の特徴があります。

〔羽ノ浦図書館〕

- ・羽ノ浦地区は、南海トラフ地震が発生した場合でも津波の浸水想定区域外であり、広域的な避難場所・防災拠点として位置付けることが可能

- ・上記の特性から、最も有利な財政措置である「緊急防災・減災事業債」（充当率 100%、交付税算入率 70%）の活用余地が特に大きい

〔那賀川図書館〕

- ・津波浸水想定区域外であることを確認したうえで、羽ノ浦と同様の防災拠点機能の付与を検討できる
- ・地方創生交付金や社会教育施設整備費補助金を組み合わせた改修が有効

なお、両館の改修において、徳島県産木材を内装に活用する機会があり、地域産業振興・脱炭素化とも連動した事業設計が可能です。

3. 活用可能な補助金・地方債の一覧

両図書館の改修に活用が見込まれる主な財源は以下のとおりです。

財源名	所管	充当率・補助率	交付税算入	主な活用場面
社会教育施設整備費補助金	文部科学省	1/3	なし	機能強化を伴う改修全般
緊急防災・減災事業債	総務省	100%	70%	避難所の Wi-Fi・空調・非常用電源・BF
公共施設等適正管理推進事業債（長寿命化）	総務省	90%	50%	築 30 年以上施設の長寿命化改修
新地方創生交付金（拠点整備タイプ）	内閣府	1/2	なし	デジタル・学習拠点としての機能強化
建築物木造化・木質化補助	林野庁	1/2 程度	なし	内装への県産木材使用

※「BF」はバリアフリーの略。充当率・補助率は原則値であり、事業内容・要件により変動する場合がある。

4. 各財源の解説

（1）文部科学省「社会教育施設整備費補助金」

- ・公立図書館の改修・機能強化に直接対応する補助金（補助率 1/3）
- ・Wi-Fi 整備、学習支援スペース（自習室）の新設は「機能強化」として評価される
- ・採択のポイント：市民ニーズの可視化（利用者アンケート結果等）、近隣施設との連携計画
- ・手続き：徳島県教育委員会を通じて文部科学省に申請（事前相談が重要）

（2）緊急防災・減災事業債（総務省）

充当率 100%・交付税算入率 70%という、最も有利な財政措置。指定避難所に指定されている(または指定する)施設が対象となる。

【羽ノ浦図書館への適用可能性が特に高い】

- ー津波の影響を受けないエリアのため、南海トラフ地震時の広域避難所・防災拠点として最適
- ー指定避難所に指定されており適用対象となる
- ー対象整備内容:Wi-Fi 設備、空調設備、非常用電源(自家発電)、バリアフリー改修、備蓄倉庫

※那賀川図書館については、津波浸水想定区域内であるため、適用は難しい。

(3)公共施設等適正管理推進事業債「長寿命化事業」区分(総務省)

- ・築 30 年以上の公共施設の計画的改修に対応(充当率 90%、交付税算入率 50%)
- ・屋根・外壁・設備更新など大規模修繕に適用しやすい
- ・前提条件:阿南市の「個別施設計画(長寿命化計画)」に両図書館が明示的に位置付けられていること

(4)新しい地方経済・生活環境創生交付金 拠点整備タイプ(内閣府)

- ・令和 7 年度より旧「デジタル田園都市国家構想交付金」を再編・拡充した制度(補助率 1/2)
- ・図書館を「デジタル・学習・地域活性化拠点」として位置付けることで対象となりうる
- ・活用できる整備内容:Wi-Fi 整備、電子図書館端末コーナー、学習スペース、デジタルサイネージ
- ・採択のポイント:「地方創生・地域活性化への貢献」を明確に示す事業計画書の作成

(5)建築物木造化・木質化補助(林野庁・都市の木造化推進法)

- ・改修に伴う内装木質化(壁・床・天井への木材使用)が補助対象(補助率 1/2 程度)
- ・徳島県産杉・ヒノキを使用することで、地域林業振興・脱炭素化への貢献をアピールできる
- ・徳島県の上乗せ補助が設定されている可能性があり、県農林水産部への確認が必要
- ・CLT(直交集成板)等の新工法活用により、さらに手厚い支援を受けられる場合がある

5. 財源の組み合わせモデル(各館別)

【羽ノ浦図書館】

指定避難所指定を前提に、最も有利な緊急防災・減災事業債を中心に複数財源を組み合わせる。

整備内容	活用財源	備考
長寿命化改修(屋根・外壁・設備更新)	公共施設等適正管理推進事業債	個別施設計画への位置付けが前提
Wi-Fi・非常用電源・バリアフリー	緊急防災・減災事業債	指定避難所指定が前提(充当率 100%、交付税算入 70%)
自習スペース新設・機能強化	社会教育施設整備費補助金または地方創生交付金	市民ニーズの可視化が採択のカギ
内装木質化(県産木材)	林野庁補助金(木造化・木質化)	徳島県上乘せ補助も要確認

〔那賀川図書館〕

社会教育施設整備費補助金と長寿命化事業債を組み合わせ、地方創生交付金で上乘せを図る。

整備内容	活用財源	備考
長寿命化改修(屋根・外壁・設備更新)	公共施設等適正管理推進事業債	個別施設計画への位置付けが前提
Wi-Fi・学習スペース整備	社会教育施設整備費補助金または地方創生交付金	デジタル・学習拠点として位置付け
内装木質化(県産木材)	林野庁補助金(木造化・木質化)	徳島県上乘せ補助も要確認
防災機能強化(避難所指定の場合)	緊急防災・減災事業債	津波浸水想定区域外の確認が前提

6. 改修に伴う機能強化の提案内容

補助・起債の要件を満たしつつ、市民ニーズに応える機能強化の方向性を以下に示します。

・Wi-Fi 整備(全館)

- －学習・調査活動の支援に加え、指定避難所としての情報通信インフラとして機能
- －緊急防災・減災事業債の活用対象として、防災面からの必要性も根拠となる

・自習・学習スペースの確保

- －既存スペースの再配置またはゾーニング変更により実現(大規模な増築不要)
- －学生・社会人の利用促進と図書館利用率の向上に直結

・非常用電源(自家発電設備)の設置

- －特に羽ノ浦図書館において、防災拠点としての機能強化に不可欠
- －停電時にも図書館機能・通信機能を継続できる体制の構築

・内装木質化(徳島県産木材の使用)

- －杉・ヒノキを壁・天井・床に使用し、温かみある空間へのリニューアル
- －県産材活用による地域林業振興・カーボンニュートラルへの貢献

・バリアフリー改修

- －高齢者・障害者・子育て世代が安心して利用できる環境の整備

・電子図書館端末コーナーの設置

ー電子書籍・デジタルアーカイブへのアクセス拠点として、デジタル・アナログ一体型の学習支援を実現

7. 優先アクション

順位	アクション	担当窓口	備考
①	羽ノ浦図書館を指定避難所に指定(または指定状況の確認)	防災担当課	指定済み
②	個別施設計画(長寿命化計画)への両図書館の位置付け確認	総務・財政課	第3期計画期間(2037年度から2046年度末まで)
③	社会教育施設整備費補助金の事前相談(徳島県教委経由)	教育委員会	
④	新地方創生交付金の事前相談(市地方創生担当)	企画政策課	
⑤	林野庁補助・徳島県産材補助の確認(県農林水産部へ照会)	教育委員会	
⑥	改修設計の発注・財源確定	教育委員会	

8. おわりに

羽ノ浦図書館・那賀川図書館は、単なる「本を借りる場所」ではなく、阿南市の市民の学習・情報・防災の地域拠点です。築30年を超えた今、次の30年に向けた図書館サービスの基盤を整える必要があります。複数の補助金・起債を組み合わせた戦略的な改修を実施していただきたいと思います。

特に羽ノ浦図書館については、津波を免れるという地理的優位性を活かした防災拠点化により、最も有利な財政措置を引き出せる可能性が高いことに加え、徳島県産木材の活用は、図書館のリニューアルを地域産業振興と結びつける好機でもあったと考えます。

阿南市がこの機会をとらえ、両図書館を市民に愛され続ける施設として次世代に引き継いでいただければ、阿南中央図書館(仮称)開館後も羽ノ浦図書館・那賀川図書館を守る会として全面的に協力する所存です。関係部署における積極的な検討をお願い申し上げます。

以 上